

物価上昇の影響で支出は増加傾向、消費マインドは停滞

～第53回熊本の消費予報調査－2025年5月調査～

主任研究員 嶋田 英岳

はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に熊本県内在住者を対象として、今後半年間における「収入」「支出」等の調査を行っている。本稿では本年5月に実施した調査結果を基に、県民の消費マインドの見通しを明らかにする。

今回調査では、収入見通しについては横ばい、支出については上昇傾向となった（図表1）。物価上昇による止む無き支出増が多く見られ、消費マインドは停滞していると考えられる。

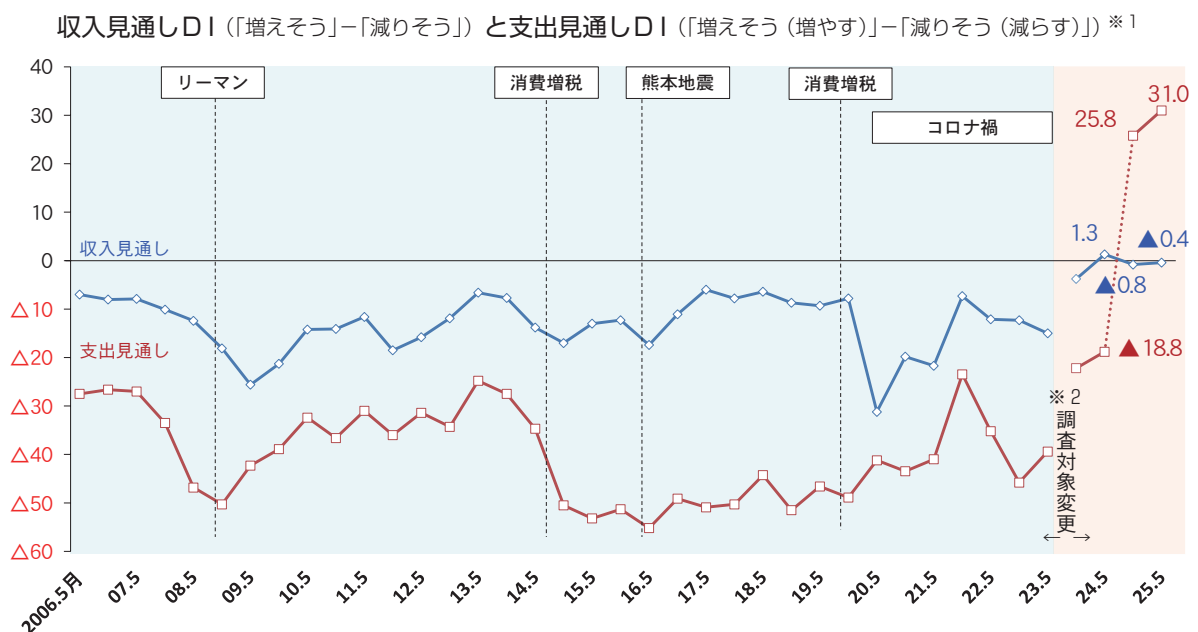
【調査の概要】

- 調査対象：熊本県在住の20歳以上の男女
※20代男性の不足分は、年代の近い30～40代にて補完。
- 調査期間：2025年5月16日（金）～5月21日（水）
- 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査
（調査会社：㈱マクロミル）
- 有効回答：1,038人

【回答者の属性】

年代	実数(人)		構成比(%)	
	男性	女性	男性	女性
20代	56	104	10.8	20.0
30代	120	104	23.2	20.0
40代	134	104	25.9	20.0
50代	104	104	20.1	20.0
60代以上	104	104	20.1	20.0
合計	518	520	100.0	100.0

図表1 今後の見通しDIの長期推移



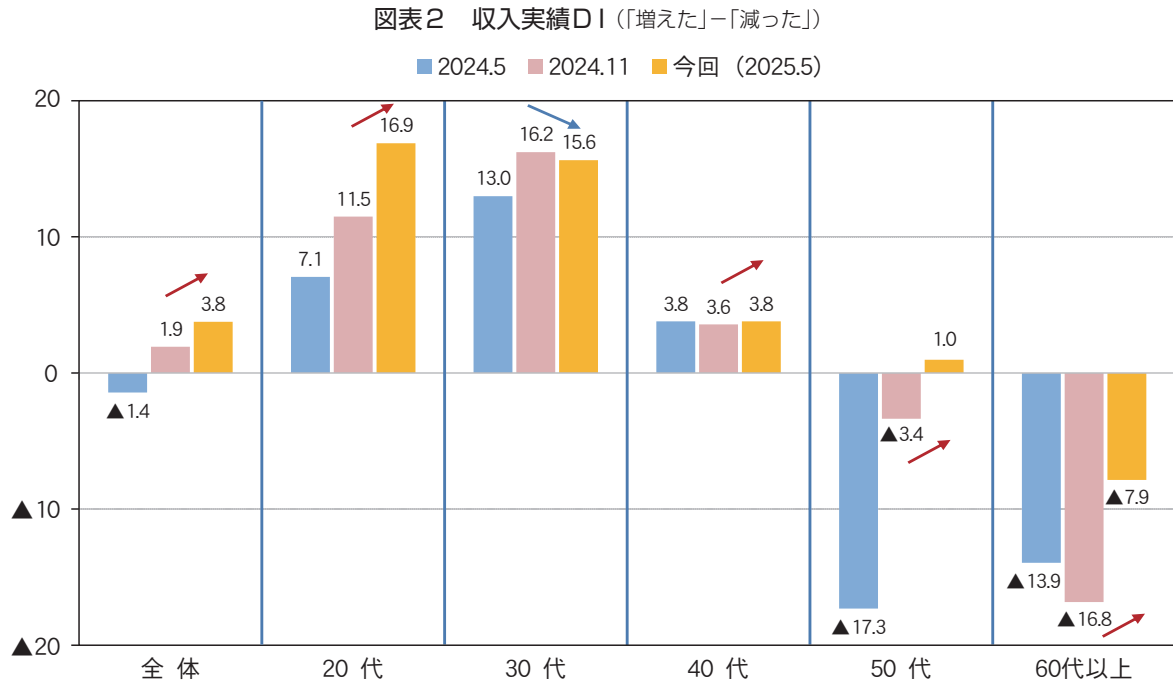
※1：支出見通しについては、物価上昇による受動的な支出増加の捕捉のため、前回調査より選択肢の表現を「増やす、減らす」から「増えそう（増やす）、減りそう（減らす）」に変更している。そのため、前々回以前の調査結果との連続性は担保されない。

※2：2023年5月まで調査対象は女性のみ、以降は男女

1 収入および支出の実績

(1) 収入実績

➤ この半年間の収入実績は、3.8と前回（1.9）から1.9ポイント（以下、p）改善した（図表2）。60代以外のすべての世代でプラス圏となった。



(2) 支出実績

➤ この半年間の支出実績は、37.8と前回（33.5）から4.3p上昇した（図表3）。20代・60代で上昇幅が大きい。

